

■ブリッグスウスイロチャタテ

昨年末ごろ、マンションの廊下を小さなチャタテがウロウロしていたので、これまでも何度も撮影してきました。



こんなチャタテです。以前、MSWiさんからウスイロチャタテ科の *Ectopsocus briggsi* に似ていると教えていただいたのですが、一匹だけ捕獲して冷凍庫の中にそのままになっていました。正確には、一度検索を試みたのですが、つまづいてしまってそのまま

になっていました。

あまりに小さいので、もう一度検索してみる勇氣がなかなか湧かなかったのですが、とりあえずやってみることにしました。

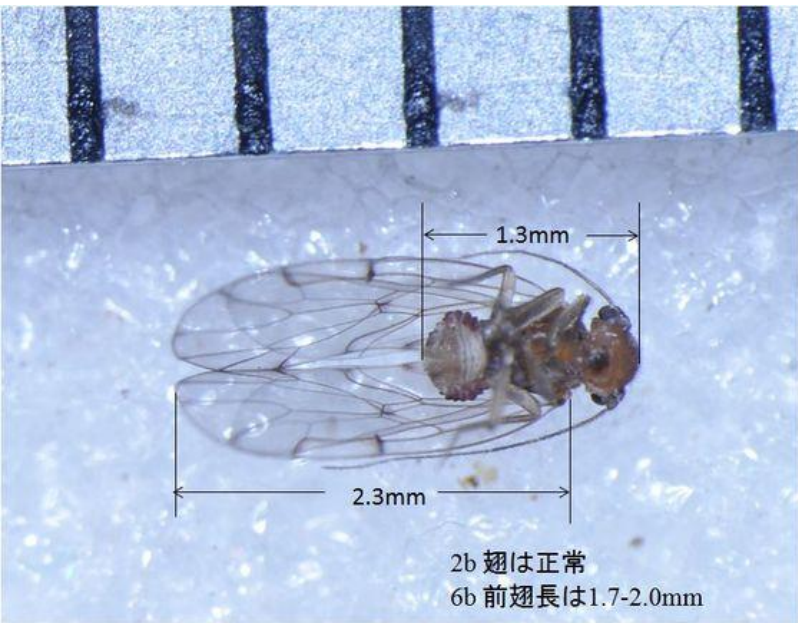


Fig. 1

これは大きさを示したものです。上にあるスケール

は一目盛りが一ミリです。フリーソフトの *ImageJ* で計測してみると、体長は体が曲がってよく分かりませんが、一ミリちょっと。前翅長は二、三ミリほどです。

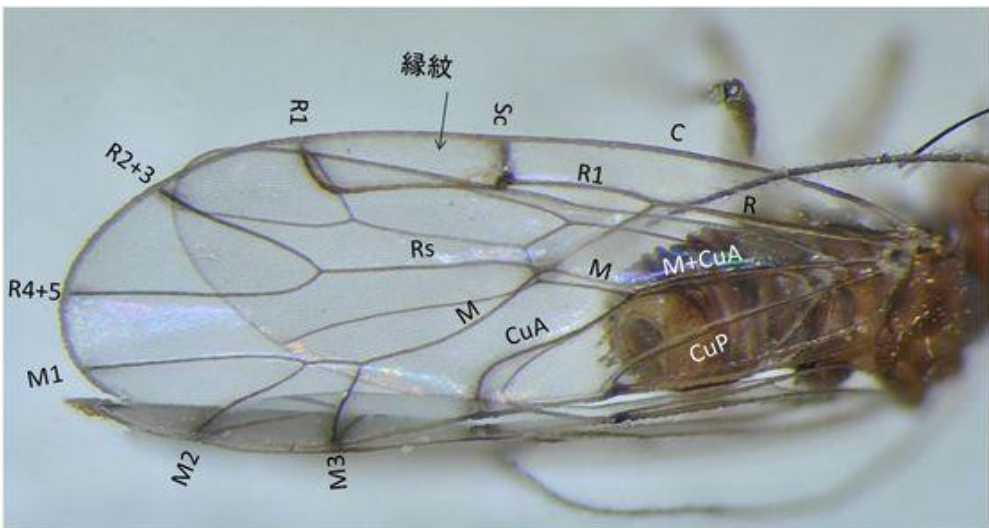


Fig. 2

そして、これは翅脈です。翅脈の名称は次の論文によっています。

田中和夫、「屋内害虫の同定法」(5) 嚙虫(チャタテムシ)目」家屋害虫 25, 123 (2003).

前翅に長四角の縁紋があるので、とりあえずウスイロチャタテムシだと予想できます。チャタテムシの検索表は次の論文のものが使えます。

富田康弘、芳賀和夫、「日本産チャタテムシ目の目録と検索表」、菅平研報 12, 35 (1991).

ウスイロチャタテムシ科は次の項目を満たすことで確かめられます。

- 一、成虫は長翅型
- 二、跗節は二節
- 三、爪の先端近くに歯を持たない
- 四、前翅先端の翅脈は完全
- 五、後小室を持たない

三を除いてはすぐに確かめられます。三は今度のように小さな個体ではほとんど分かりません。それで爪に歯はたぶんないだろうと思って先に進みました。この科では、五の後小室を持たないというのが一番重要な性質だと思います。上の翅脈の写真では、CuA脈が分岐しないでそのまま翅縁に達し、縁に小室を作っていないところがポイントです。

ウスイロチャタテムシ科として、次に種の検索をやってみることにします。

ウスイロチャタテムシ科♀の種への検索表

1a ♀の生殖突起は著しく退化する	<i>Ectopsocopsis cryptomeriae</i>
1b ♀の生殖突起は完全	
2a 翅は微翅または短翅	<i>Ectopsocus maindroni</i>
2b 翅は正常	
3a 前翅に縁毛を持たない	<i>E. ornatoides</i>
3b 前翅に縁毛を持つ	
4a 前翅中脈とRs脈は長い横脈で結合	<i>E. flaviceps</i>
4b 前翅中脈とRs脈は一点で合うか短い横脈で結合	
5a 後翅に縁毛を持たない	<i>E. pumilis</i>
5b 後翅に縁毛を持つ	
6a 前翅長は1.5mm以下	<i>E. boharti</i> or <i>E. maindroni</i>
6b 前翅長は1.7-2.0mm	
7a 卵巣小管は6本	<i>E. meridionalis</i>
7b 卵巣小管は10本	<i>E. briggsi</i>

上の論文に載っている種への検索表を書いてみました。この個体はおそらく♀だと思っので、♀用にしています。これを一つつづつ確かめていくのですが、最初の一については生殖突起がどれなのかよく分かりません。でも、*Ectopsocopsis cryptomeriae* (クリイロチャタテムシ)らしい個体は先日調べたので、ここでは一を飛ばすことにします。次の項目からは写真に

書き込んでいったので、それを見ながら確かめていきたいと思っいます。

まず、Fig. 1では翅が長翅型であることと、前翅長が一、七以上だということを確かめます。実は、検索表では一、七、二、〇になっていました。この個体では二、三とちょっと大きいのですが、たぶん、このぐらいは許容範囲だと思ってOKにしました。

で、次が問題です。この項目は前翅に縁毛を持つか持たないかということなのですが、Fig. 2を見ると、およそ縁毛らしいものは見られません。従って、必然的に *E. ornatoides* になってしまうのですが、吉澤氏の Checklist of Japanese Psocoptera によると、この種は日本では父島にしか生息していません。また、次の論文は *E. ornatoides* の記載論文になっているのですが、見てみると少し違う感じなんです。

I. W. B. Thornton and S.-K. Wong, "THE PERIPSOCID FAUNA (PSOCOPTERA) OF THE ORIENTAL REGION AND THE PACIFIC", Pacific Insects Monograph 19, 1 (1968).

行き詰ったポイントは前翅に縁毛があるのかどうかなので、もう一度詳しく調べてみることにしました。

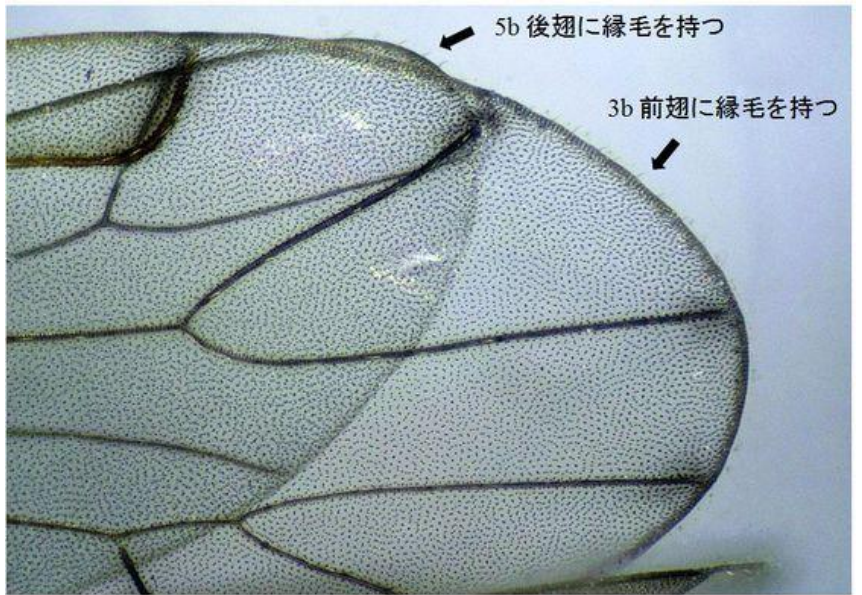


Fig. 3

翅の縁を生物顕微鏡の一〇〇倍で観測してみると、上の写真のようにわずかですが、縁毛のあることが分かりました。ついでに後翅にも短い縁毛が並んでいます。これで迷路から脱出できました。

次は検索の四になるのですが、次の写真を見てください。

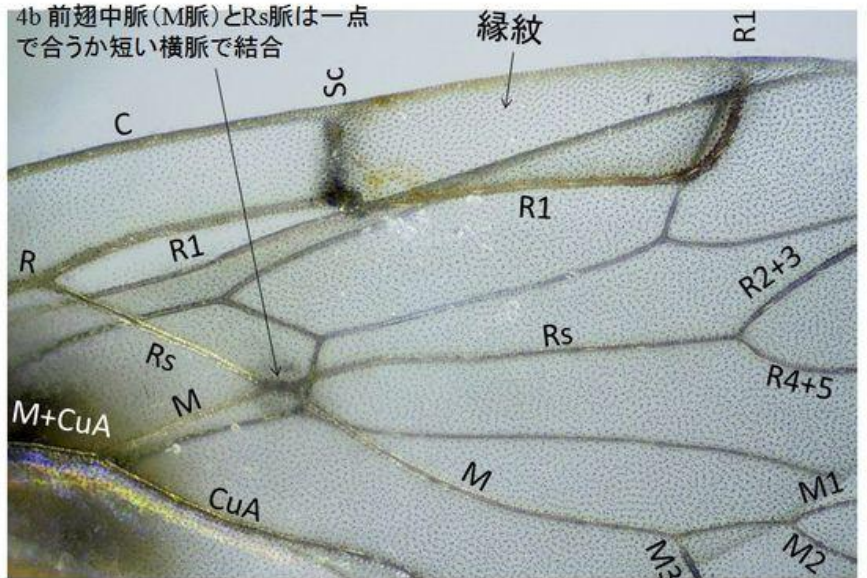


Fig. 4

前翅と後翅が重なっているの見難いのですが、Rs脈とM脈はほぼ一点で交わっています。よく見ると若干脈が融合しているようにも見えますが・・・。

次の五は後翅の縁毛なので、先ほど見た通りです。六は前翅長で、これもすでに書きました。そして、いよいよ最後の項目です。ですが、卵巣小管が何だか分かりません。

ここで行き止まりだと思ったので、いろいろとネッ

トを探してみました。Psocodea Species File Online というサイトがあります。この中に、*E. meridionalis* についても出ていました。もちろん *E. briggsi* の変種として記載されたようです。このサイトには論文もいろいろと出ていて大変便利です。この中の論文を調べていたら、卵巣小管以外の項目で検索している本も見つかりました。

E. L. Mockford, "North American Psocoptera", Flora & Fauna Handbook No. 10 (1993).

Google Books で一部読めるのですが、うまい具合に *Ectopsocus* 属の検索表は読むことができませんでした。この中で両種の区別は下の項目でなされていました。

つまり生殖下板の先端突起の形で見分けられるようです。生殖下板は subgenital plate の訳で、上に挙げた田中氏の論文によれば亜生殖板となっていて腹部第七腹板を指すみたいです。それで、とりあえず腹端の写真を腹側から撮ってみました。

10a 生殖下板の先端突起は内側に湾曲する;...

11b 生殖下板の先端突起は直線的;... *E. californicus*, *E. petersi*, *E. meridionalis*

E. briggsi



Fig. 5

撮るには撮ったのですが、写真を見ても何が何だかさっぱり分かりません。そこで再びネットを探していたら、こんなサイトを見つけました。National Barkfly Recording Scheme (Britain and Ireland)というサイトです。この中で、実に、この項目で両種を比較しているページが見つかりました。それを参考にして上の写真に項目を書き込んでみました。どうやらこの二つの突起が生殖下板の先端突起を指すようです。このサイトの写真と比べると、生殖下板の先端突起は内側に湾曲していて、*Ectopsocus briggsi*とそっくりです。ということですが、どうやらMSWiさんのお見立て通り、この個体は*Ectopsocus briggsi*で合

っているのではないかという結論になりました。この種は田中氏の論文ではブリッグススイロチャタテという和名が当てられていました。

最後に顔写真も撮ったので載せておきます。



Fig. 6

でも、この写真、ちょっと失敗でした。試料を白いペグ板に載せて撮影したら、横から当てた光でペグ板が光り、ちょっとコントラストがなくなってしまうからです。今度また撮り直してみます。それにしても、チャタテムシは意外に情報が多いですね。調べるのが楽しみになりました。(2016.1.15記)